

戦略的機能イノベーション研究所

Centre for the Research of Emergent functions in Artifacts and Technological Enterprises

研究所の概要

国内の製造業、サービス産業などにおいて、つくり手側の多くの企業が方向性を見失いつつあり、国際競争の中で継続的に発展していくことに不安感を持つ傾向が出てきたことは否定しきれない。しかし、そのための国内企業の活動を中心とする学術的知見の構築に関する議論は薄めであったといわざるを得ない。本研究所の方向性としては、このような状況の中で有効性があると考えられる、学術的知見に基づく議論を進め、その蓄積に努めていくものである。



所長

吉田 敏

YOSHIDA Satoshi

キーワード

Emergent Function（発生機能）、
設計情報分析、人工物特性の把握
感覚的価値の再現可能性

令和5年度の実施項目

- 設計プロセスにおける設計機能と発生機能の差異に関する考察
- 使い手側の活動から見た設計情報との関係性に関する考察
- パンデミックの影響に拠る国内企業の業務構成要素相互依存性

令和4年度の研究活動内容及び成果

現在、本研究所では、機能設計内容について議論を進めているところである。そのために、複数の産業を対象に設計プロセスについて調査し、その中から設計機能を中心に要素を抽出し、論理的な考察を加えている。特に、本年度は、オフィスファニチャーを中心に議論しており、概念設計と機能設計についての議論がなされてきた。また、並行して、基盤的な機能設計についての考察も行われ、着実に理解する範囲が積み重ねられてきている。

表面的な成果としては、論文の投稿にまとめたものがある。特に、本年度は、Scopus 掲載学術誌に1本と、国内の学会論文誌に1本、査読論文が採択されている。

引き続き、同じ視点からの議論を進め、可能であればメンバーの補強も視野に入れながら、議論の発展を試みるものである。

このような活動に基づき、令和4年度について、以下のような成果が得られた。

建築設計における施主側の活動特性把握手法の開発

（事務所建築におけるテレワーク導入の推移と業務構成要素間の関係性の考察）

吉田 敏、藤田 大樹

設計工学、58 卷 3 号 p. 95-112

発行日: 2023 年

DOI <https://doi.org/10.14953/jjsde.2022.2962>

Understanding the Characteristics of Regional Building Construction Systems

Satoshi Yoshida*

The Open Construction & Building Technology Journal., Vol. 16, 2022

DOI: 10.2174/18748368-v16-e2202100

事業特性とテレワーク移行との関係性に関する一考察

吉田 敏, 志度成子、Ying-Chang Yu

東京都立産業技術大学院大学紀要

2023 年 1 月、第 16 号、pp.111-116